

応募資格に関するQ & A

- Q** 国籍の制限はありますか？
A 国籍の制限はありません。
- Q** 在留資格が「留学」以外でも応募できますか？
A 在留資格が「留学」の人のみ応募できます。
- Q** 在学する学部・学科、研究内容等が応募対象になるかわからないのですが？
A 在学する学部・学科にかかわらず、研究内容が医学、薬学、生物学、栄養学、体育学及び経営学に関連していれば応募できます。それでも自分で判断できない場合のみ、当財団ホームページのお問い合わせフォームより具体的な研究内容を記入して事務局にお問い合わせください。
- Q** 生物学専攻で、植物や動物に関する研究をしているのですが、応募できますか？
A 在学する学部・学科にかかわらず、人の健康に関連している研究をしている人が対象です。
- Q** 研究生も応募できますか？
A 研究生は応募できません。非正規留学生は対象外です。
- Q** 入学前に応募できますか？
A 応募できません。願書とともに在学証明書の提出が必須のため、4月時点で正規課程に在学中の人が対象です。
- Q** 2015年秋に卒業するのですが、応募できますか？ この場合、半年分の奨学金の受給はできますか？
A 応募できません。給付期間(2015年4月から2016年3月まで)に在学している人のみが対象です。また、半年分の奨学金給付は行いません。
- Q** 標準修業年限内に卒業できないかもしれないのですが、応募できますか？
A 長期履修生や標準修業年限を越えている人(オーバードクターを含む)、標準修業年限内での修了が見込めない人は応募できません。採用されてから卒業延期となった場合は採用が取り消されます。

- Q** 年齢制限はありますか？
A 2015年4月1日時点で満38歳以下の人が対象です。
- Q** 他の奨学金を受給している場合は応募できますか？
A 受給している他の奨学金が併給可能な場合は、応募できます。支給団体名、期間、金額等を証するコピーを提出してください。

提出書類に関するQ & A

- Q** 募集要項等の書類はどこで入手できますか？
A 募集要項等は、当財団ホームページで見ることができます。また、願書(当財団指定用紙)は当財団ホームページからダウンロードして使用してください。新規と継続では願書の様式が異なりますので、注意してください。
- Q** 願書④「学歴・職歴」はどのように記入すればいいですか？
A 母国の最終学歴から現在までの経歴(日本語学校や研究生等含む)を時系列で記入してください。職歴がある場合は具体的に記入してください。

記入例)

2005	9	~	2009	7	〇〇大学 △△学部 ××学科 (中国〇〇省△△市)
2009	9	~	2010	8	株式会社〇〇〇 研究開発職 (中国〇〇省△△市)
2010	9	~	2011	8	☆☆☆日本語学校(東京)
2011	10	~	2012	3	〇〇大学大学院 △△研究科 研究生
2012	4	~	2014	3	〇〇大学大学院 △△研究科 博士前期課程
2014	4	~			〇〇大学大学院 △△研究科 博士後期課程

- Q** 入学したばかりで、在籍する大学院の成績証明書がありません。その場合、大学の成績証明書で応募できますか？
A 卒業した大学の成績証明書で応募できます。

- Q** 成績証明書は原本でなく、コピーでもいいですか？
A コピーで応募できます。
- Q** 母国語で書かれた成績証明書で応募できますか？
A 応募できます。日本語または英語表記の成績証明書の取得が困難な場合は、母国語で書かれた成績証明書で応募できます。また、成績証明書は原本でなくコピーでも結構です。なお、募集要項に記載の通り、履修科目、単位数、点数、評価及びその説明のあるものを提出してください(合格、不合格の評価のみのものは不可)。
- Q** 5月15日(金)の締切は消印日ですか、到着日ですか？
A 5月15日(金)17時事務局必着です。郵送以外は受け付けません。
- Q** 願書は手書きでなくても応募できますか？
A 応募者本人が手書きで記入してください。タイプした願書や代筆が含まれたものは選考対象外です。
- Q** 推薦状も手書きでないとダメですか？
A タイプしたものでも可能です。当財団ホームページからエクセル版をダウンロードできますので、そちらを使用してください。ただし、氏名欄(ご署名)は推薦者が必ず自筆で記入してください。代筆や記名の場合は選考対象外となります。
- Q** 英語で書いた願書は受け付けていますか？
A 受け付けますが、英語で記入した部分はすべて日本語訳の添付が必要です。その場合も、願書への英語での記入は必ず応募者本人が手書きで行ってください。なお、日本語で記入できる部分は日本語で記入してください。日本語訳は手書きである必要はありませんが、「将来の抱負」「研究内容」「昨年度の成果」については必ず字数制限を守り、字数を明記してください(様式は問いません)。誤訳、大幅な訳漏れ等の日本語訳の不備は選考対象外となりますので、注意してください。
- Q** 英語で記入する際、願書のマス目のある「将来の抱負」「研究内容」「昨年度の成果」はどのように記入したらいいですか？
A マス目を無視して記入してください。

- Q** 研究内容が特になければ、研究内容には何を書いたらいいですか？
A 「今後研究したいテーマ」とその手法を具体的に800字以内で記入してください。
- Q** 現在、病院実習中で研究していない場合、研究内容には何を書いたらいいですか？
A 「実習で何を学んでいるか、今後医学的に何を成し遂げたいか」を800字以内で記入してください。
- Q** 願書⑤「外国人留学生担当部署・担当者名」とは何ですか？
A 在学の大学・大学院で奨学金を担当する学生課などの部署名と担当者名を記入してください。連絡先電話番号の欄には担当部署への直通電話番号、担当部署email欄には担当者のemailアドレスを記入してください(直通電話番号がわからない場合は、代表番号で結構です)。
- Q** 特定の指導教官がいない場合、推薦状は誰に書いてもらえばいいですか？
A 学部長もしくは研究科で責任のある方に記入してもらってください。ただし、専攻の授業や研究指導を請け負っている方のみです。

奨学金額に関するQ&A

- Q** 奨学金の金額はどのように決まりますか？
A 当財団選考委員会による書類審査、面接試験の評価に応じて200万円、150万円、100万円のいずれかを決定します。他奨学金と併給の場合は一律50万円になります。
- Q** 他奨学金、研究助成金の受給やアルバイト等での収入は合否に影響ありますか？
A 合否に影響はありません。アルバイトや仕送りによる収入はあくまで、応募者の生活状況を知るための目安としています。ただし収入と支出の明細が記入されていない、又は合理性に欠ける場合は選考対象外となりますので、現状を正確に記入してください。
- Q** 他奨学金と併給になる場合、受給している金額にかかわらず減額されますか？
A 併給する奨学金の金額にかかわらず一律50万円を給付します。

Q & A

Q 入学金や学費の免除は併給になりますか？

A 併給にはなりません。

Q アルバイトやTA、RAなどの収入は併給になりますか？

A 併給にはなりません。

Q 貸付の奨学金は併給になりますか？

A 併給にはなりません。国や財団等からの返済の必要がない奨学金のみ併給とみなします。

日本語能力に関するQ & A

Q 日本語のレベルにかかわらず応募できますか？

A 応募できます。ただし、在日間に比しての日本語能力は、合否に影響を及ぼす可能性があります。

Q 英語で面接を受けることはできますか？

A 原則、面接は日本語ですが、在日期間が短い人は英語での面接も可能です。ただし、日本語で願書を提出した場合は日本語での面接になります。英語での面接は認められませんので、必ず応募者が使用可能な言語で願書を記入してください。

応募者数・採用者数に関するQ&A

Q 例年何名ぐらいの応募がありますか？

A 2014年度の応募者数は501名、2013年度は539名でした。

Q 奨学生の採用人数は何名の予定ですか？

A 2015年度は約95名採用予定です。2014年度は87名、2013年度は86名を採用しました。

その他のQ & A

Q 願書が事務局に届いたかどうか心配で確認したいのですが？

A 応募者が多いため、到着の有無についてはお答えできません。事務局に届いているかどうか心配な場合は、郵送する際に書類の追跡ができる簡易書留等で送ってください。

Q 願書を事務局に直接持って行ってもいいですか？

A 郵送のみ受け付けます。事務局に直接持参した場合や、ファクスやメールでの提出は選考対象外となります。

Q 面接はいつ、どこでありますか？

A 東京と大阪で7月上旬に行います。こちらで指定した会場にお越しください。

Q 面接の連絡はいつ来ますか？

A 7月上旬に応募者本人にメールで直接連絡します。事務局から連絡がない人は不合格となります。また、合否についての問い合わせには一切お答えできません。

Q 継続申請の場合も新規申請と同じように願書と添付書類をすべて揃えて提出しないとダメですか？

A 継続申請の場合も新規で応募した時と同様に、すべての応募書類を揃えて事務局宛てに提出してください。

財団の概要

設立年月日

2007年3月6日 「財団法人 大塚敏美育英奨学財団」 設立
2012年4月1日 「公益財団法人 大塚敏美育英奨学財団」 設立登記

設立の趣旨

わが国においては、近年少子高齢化が著しく今後更にこの傾向が加速化するものと思われ、若年の有能な人材の育成が強く望まれております。一方、わが国と経済、教育及び文化において深く結びついているアジア・アラブ・アフリカ地域等の開発途上国においては、若年層人口は増加傾向にあるものの、わが国等の先進国における大学等の高等教育機関で学び研究するものは限られ、また留学中の経済的基盤は不十分な状況にあると思われま。

このようなわが国と開発途上国の置かれている状況と今後の互恵の益々の発展が必要な現状に鑑み、アジア・アラブ・アフリカ地域等から、わが国の大学及び大学院に留学し、医学、薬学、栄養学、体育学及び経営学を専攻する留学生や留学院生に対し、奨学助成することは有意義であるものと考え、2007年に財団法人大塚敏美育英奨学財団を設立致しました。

出捐者・大塚敏美プロフィール

当財団は大塚グループ創業者一族の大塚敏美から私財の提供を受けて設立されました。

大塚敏美は1922年12月24日に徳島県鳴門市で生まれ、昼夜を問わず懸命に働く両親の下で、幸せな子供時代を過ごしました。1950年に父・武三郎が設立した大塚製薬工場に入社してからは、会社の事務はもちろん、社員寮の世話に至るまで責任を持って働く一方、日常生活では日々質素倹約し、節制に努めていました。晩年になり、何か世の中のお役に立てることがしたいと、長年に亘って蓄えた私財の提供を申し出ました。こうして2007年、大塚グループの発展を長年に亘りご支援いただいた海外地域からの留学生に対して奨学金を給付し、将来を担う人材の育成に寄与するという目的で、「財団法人 大塚敏美育英奨学財団」が設立されました。

財団法人の理事に就任してからは、毎年の奨学生認定式で長年の人生経験を通じて、「学ぶことのすばらしさ」「困難を乗り越えることの大切さ」を奨学生に語りかけてきました。礼儀正しく謙虚な人柄で、誠実さを貫き、2011年5月3日、清らかな88歳の生涯を全ういたしました。大塚敏美の思いは現在も当財団の事業の中に生き続けています。

目的

日本国内の大学及び大学院に在学する有能な外国人留学生に対しての奨学援護を行い、もってわが国と世界の国々との国際親善と国際理解を担う有能な人材を育成することにより、わが国と世界の国々との学術、文化、教育の相互発展及び友好の発展に寄与することを目的としています。

事業

1. 日本国内の大学及び大学院に在学する有能な外国人留学生に対する奨学金の給付
2. 奨学金の給付を受ける留学生に対する生活指導及び助言
3. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

掲載のQ&A以外にも、当財団ホームページに応募Q&Aを掲載しておりますので、参照してください。